

## 弥生時代の土器からみた交流

寒川 史也

### 【講座の概要】

土器は、時間的な変化や地域的な特色を把握しやすい考古資料であります。そのため、それらを研究の対象とすることは、各地域間もしくは集団間における関係を考える上で重要な意味をもってきます。日常的な遺跡の発掘調査の中で、その土地のものとは異なる土器が出土する場合がありますが、他地域の土器の出土は、往々にして当時の人々の移動と交流の結果と結びついています。

弥生時代の土器からみた交流というテーマで、まず取り上げられるのは弥生時代の開始と、各地への稲作またそれに合わせての遠賀川式(系)土器の波及です。北部九州においては、朝鮮半島から移住してきた人々と、在来の縄文時代人との集団関係について古くから議論がなされています。岡山の南部でも弥生時代の開始期は、狩猟採集を主とする集団と農耕を主とする集団の両者が存在しています。そして、やがて後者に取れんしていく過程がうかがい知れます。

弥生時代中期の土器は、器の種類が増え、つくりや文様といった点でも凝りをもたせており、各地で個性的な展開をみせるようになります。岡山市内に所在する南方遺跡は、当時の地域を代表するような拠点的な集落の1つですが、その調査では近隣の山陰や四国地域、そして九州でみとめられる土器が一定数出土しています。それらは、貯蔵用として使われる壺形土器を主体としており、交易といった人の移動の伴うものであると推測されます。遺跡内でみられるサヌカイトの石材や玉つくりの素材、破片資料ながらも南海産の大型貝類などの遺物の出土はそれを裏付けます。また、この時期の瀬戸内系土器は、遠く関東(神奈川県中里遺跡)や北陸(石川県八日市地方遺跡)で出土する例もあるようです。

弥生時代後期には、岡山南部の平野の集落遺跡で、他地域土器の出土が確認されます。そして、その状況が顕著に変化し、数と種類の両面で増加の傾向がみられるようになるのが、弥生時代の終わり頃、3世紀に差し掛かる時期に当たります。この頃、西日本のそれぞれの地域で煮炊きに使用される甕形土器が薄型・軽量化しており、その上で遠隔地の遺跡から出土するといった事例が数多くみとめられるようになります。県内の遺跡から出土した他地域土器も、甕の割合が増え、その他の器種もこれに加わります。したがって、ある程度の滞在も含めた人の移動(移住)が、各地で広範囲にわたり想定される状況です。こうした土器からみる様相は、集団間の交流の緊密化と表裏一体の関係にあると考えられます。

弥生時代終末期には、各地で墳丘墓が発達しますが、そこに副葬される青銅器・鉄器・ガラス製品は舶載品で占められており、大陸や半島との対外交渉の成果と言えます。したがって、それらを手に入れるため列島内では地域間を結ぶネットワークが構築されたものと捉えられます。当時の社会において、この紐帯への参加が必要不可欠な事実であったことは容易に想像されます。こういった古墳時代に入る直前段階の交流のあり方は、後に前方後円墳が列島各所に波及し定着する展開の伏線に十分なりえたものと思われれます。

①

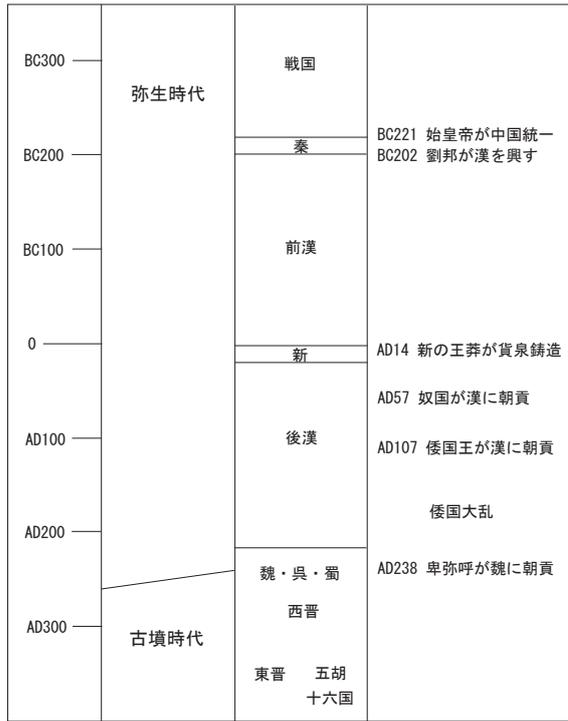


図1 年表(関連する出来事)

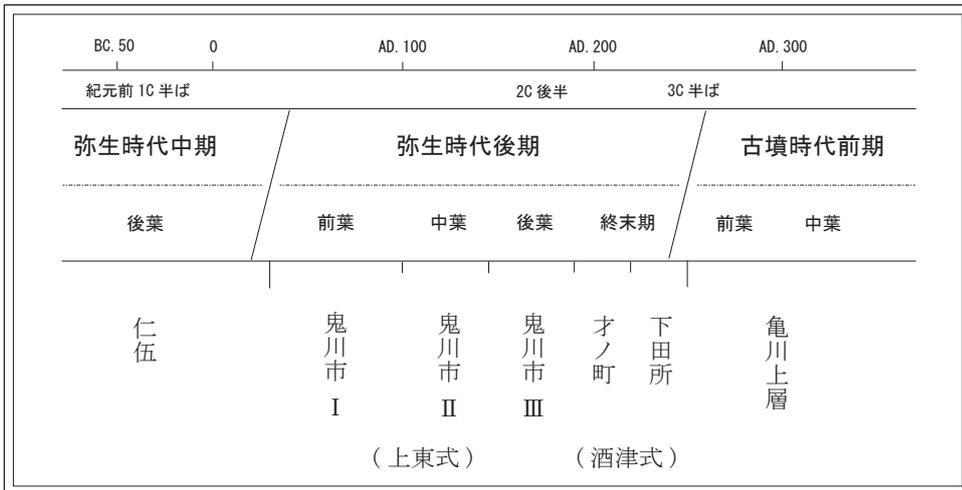


図2 土器の変遷と  
暦年代との対応

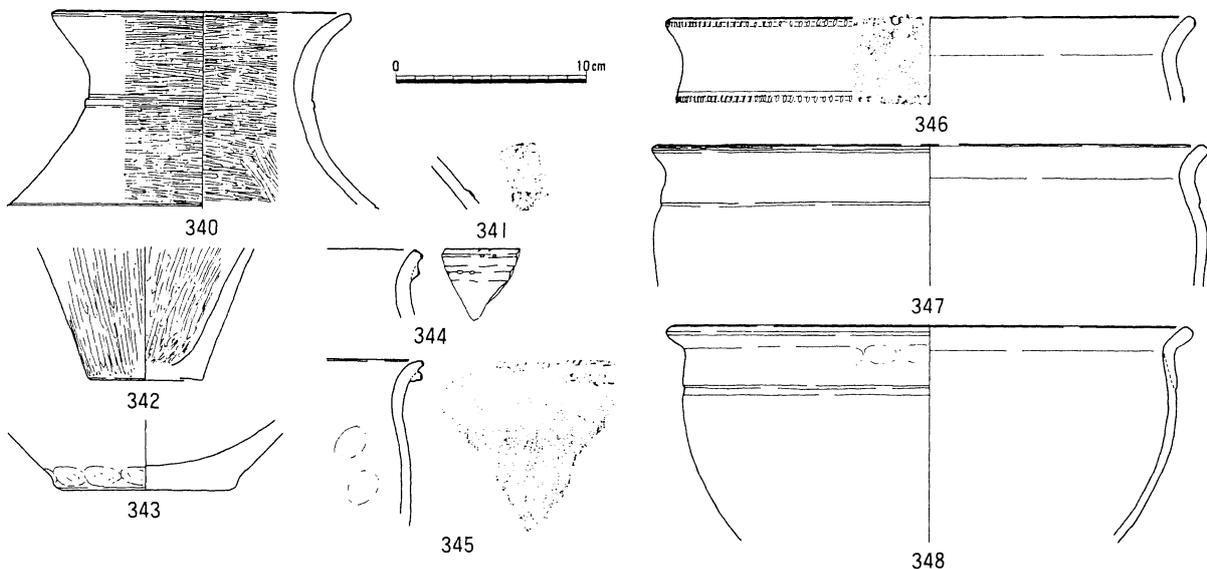


図3 窪木遺跡土壇 30 出土土器

②

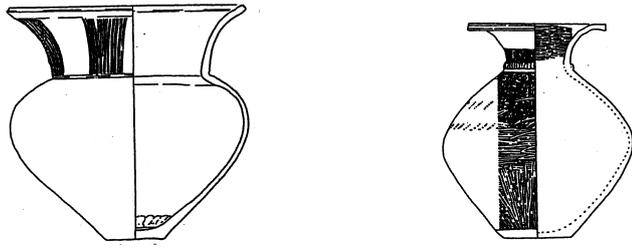


図4 弥生時代中期  
の壺形土器に  
みる地域色

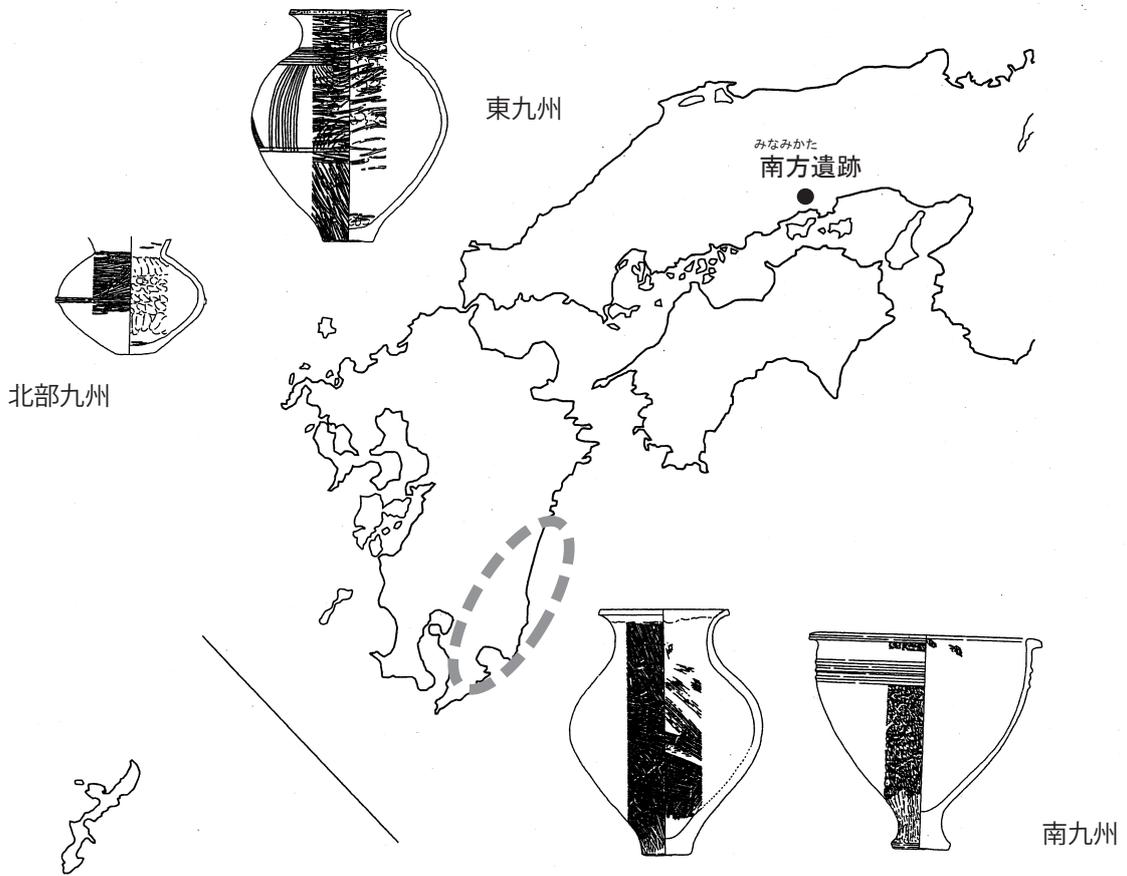


図5 南方遺跡から出土した九州系土器

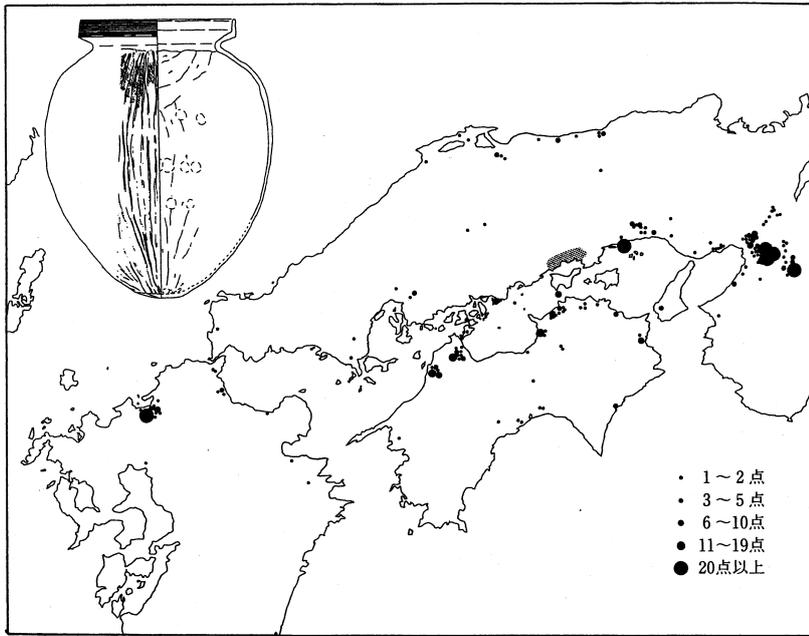
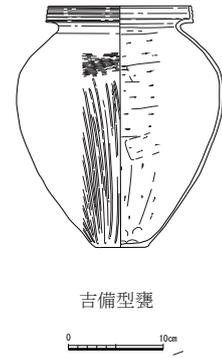
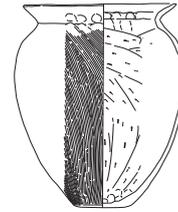


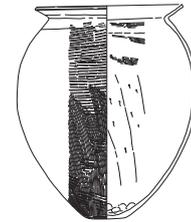
図6 西日本における吉備型甕の分布 (次山 2007)



吉備型甕



「く」の字甕 (ハケ)

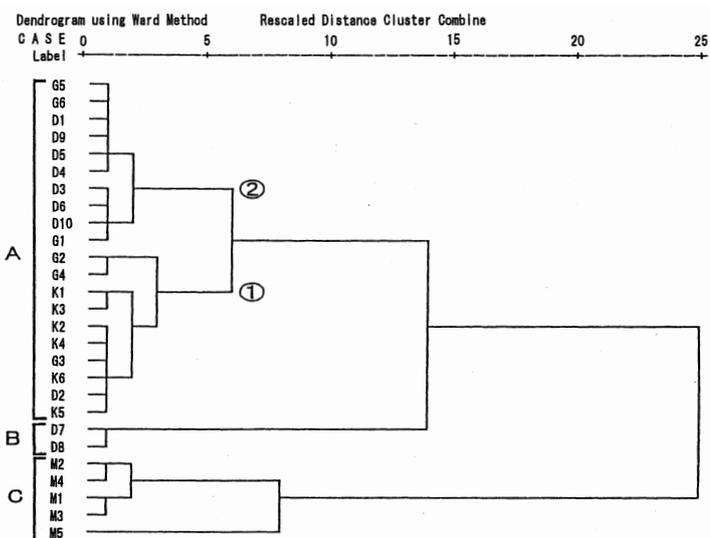


「く」の字甕 (タタキ)

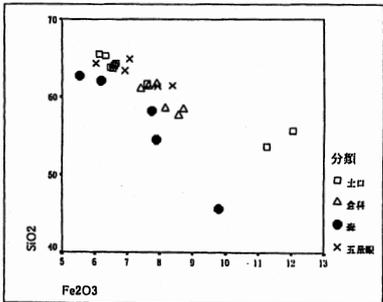
図7 岡山南部の平野における弥生時代  
終末期の甕形土器

	遺跡	遺構	口縁部径	頸部径	胴部最大径	
弥後III b	原尾島遺跡4	井戸2	7.5	*3.5	5.6	吉備型甕
	米田遺跡3	井戸111 9層	*4.7	7.4	13.4	吉備型甕
弥後IV a	東山遺跡	井戸6	6.8	8.4	9.3	吉備型甕
			10.9	8.4	6.5	他
	足守川矢部南向遺跡	土坑72	6.1	8.6	7.5	吉備型甕
			10.6	12.0	13.0	他
弥後IV b	川入遺跡	井戸11	6.0	6.7	*4.6	吉備型甕
		井戸13	9.6	9.3	8.4	吉備型甕
古前I a	沢田遺跡2 (横田)	井戸10	*3.9	*3.1	*4.6	吉備型甕
	原尾島遺跡1 (新田サイフォン1)	井戸2	5.7	5.9	6.4	吉備型甕
	原尾島遺跡3 (三ヶ股・丸田)	井戸8	*4.2	5.5	*4.2	吉備型甕
古前I b	沢田遺跡2 (高縄手A)	井戸28 中・下層	*3.2	*5.0	*4.9	吉備型甕
	沢田遺跡3 (高縄手B)	土坑117 上層	*4.9	5.6	*4.5	吉備型甕
	米田遺跡3	井戸112 下層	*4.2	*3.8	*5.0	吉備型甕
古前II a	原尾島遺跡3 (三ヶ股・丸田)	井戸72層	5.7	6.8	8.3	吉備型甕
	津島遺跡6	井戸3	5.6	*3.9	6.1	吉備型甕
	津寺遺跡5	竪穴住居218	*4.8	*4.2	8.5	吉備型甕
古前II b	足守川加茂A遺跡	竪穴住居21	5.8	*4.8	*4.7	吉備型甕
	津寺遺跡3	竪穴住居99	*4.4	*2.6	*3.9	吉備型甕
古前II c	沢田遺跡2 (高縄手A)	井戸18 下層	5.6	6.4	9.3	吉備型甕
	沢田遺跡3 (高縄手A)	井戸6	*3.7	*3.8	7.5	吉備型甕
	津島遺跡4	井戸1	6.7	6.5	6.9	吉備型甕
	津島遺跡6	井戸1	8.7	8.2	14.1	吉備型甕

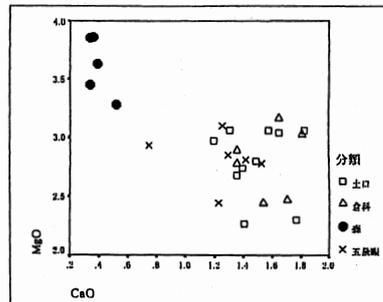
図8 土器の法量からみた規格度の差



第2図 クラスター分析結果



第3図 SiO<sub>2</sub>-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 元素濃度分布図①



第5図 MgO-CaO 元素濃度分布図

図9 胎土分析の事例

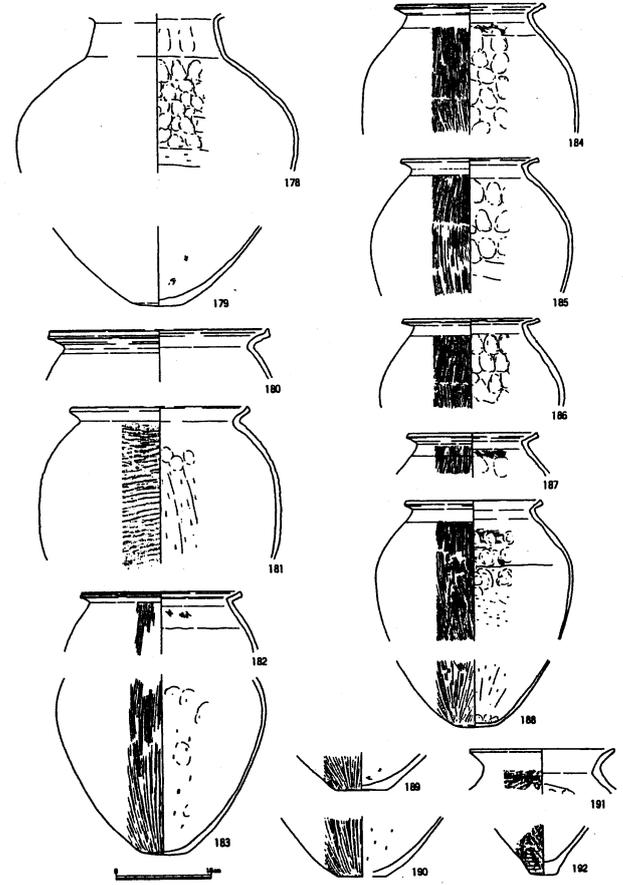
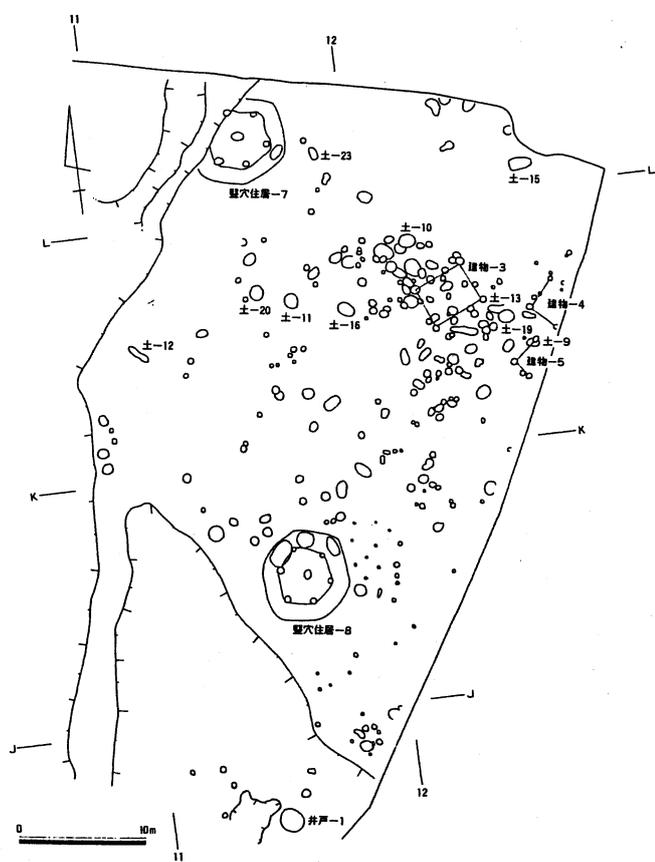


図10 高下遺跡における遺構の配置と竪穴住居出土土器

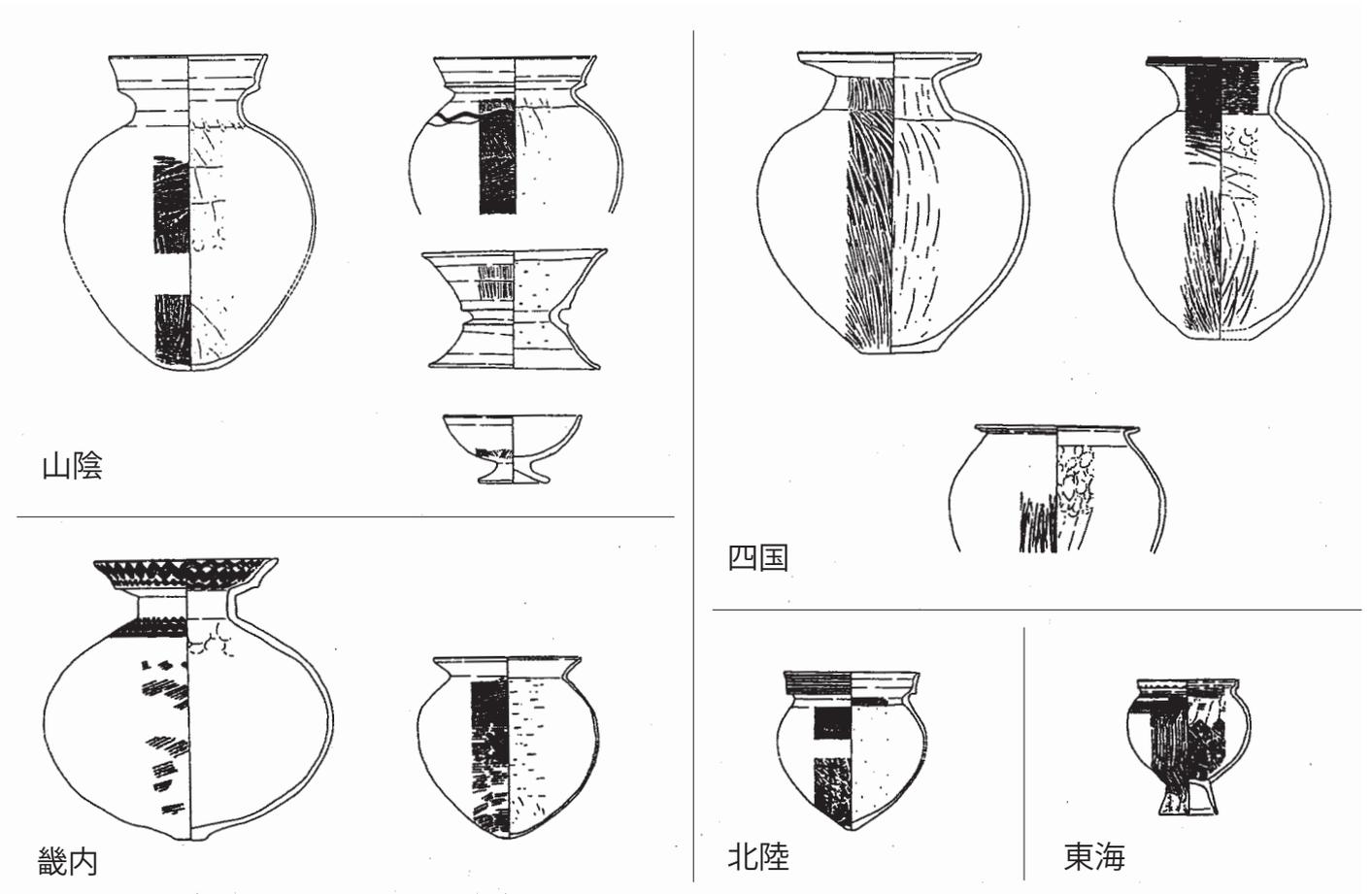


図 11 津寺遺跡出土の外来系土器

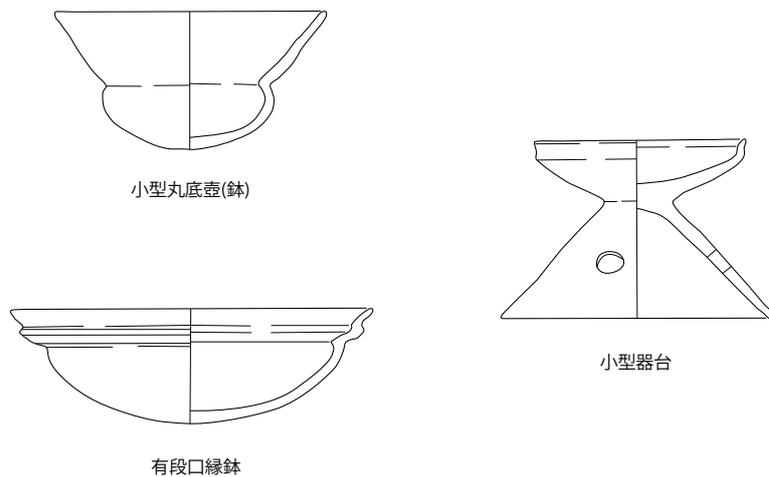


図 12 古墳時代前期に成立する小型三種土器

＜引用した図の出典等＞

- 図 3：岡山県教育委員会 1997『窪木遺跡 1』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 120
- 図 6：次山 淳 2007「古墳時代初頭の瀬戸内海ルートをめぐる土器と交流」『考古学研究』54-3 考古学研究会
- 図 9：東京学芸大学考古学研究室 2004「善光寺平南部域における古墳出土埴輪の考古学・考古科学的研究 (1)」『Archaeo-Clio』第 5 号
- 図 10：岡山県教育委員会 1998『高下遺跡ほか』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 123
- 図 11：岡山県教育委員会 1996『津寺遺跡 3』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 104